

魔王ミナトと東方将軍  
ツアラトウストラの叙  
事詩

東方将軍ツアラトウストラ

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

これは魔王ミナト様が目覚めてからの叙事を、我東方将軍ツアラトウストラが記したものなのだ。我と魔王様がどのようにしてこの世界を征服していくのか見るがいい!!

エロシーンは魔王様によって、天使の策略がないか分析されたので、削除されたのだ。

(ひなたルート最後の最後、ラノベを投稿するというシーンのラノベの妄想です。ひなたちゃんが投稿してる程でお願いします)

# 目次

魔王ミナトと東方將軍ツアラトウストラ

の叙事詩

1



## 魔王ミナトと東方將軍ツアラトウストラの叙事詩

○月☆日 天氣：灼熱の業火

兼ねてより待ち望んでいた魔王様が覚醒した。その名は魔王ミナト。千年の眠りを超えて、今日目覚めの刻ときを迎えたのだ……！

魔王様は全ての悪の頂点。とつてもカッコよかったのだ！

実は恥ずかしながら、我はここ数日天使の洗脳を受けており、心を持たない玩具、生きる屍にされていた。それを復活した魔王ミナト様が救ってくれたのだ。ククク、天使どもめ。魔王様にかかったら、そんな洗脳、魔力で塵芥のようなもので。

そして、我は永遠に身も心も魔王様に捧げることにした。これで永遠に、魔王様と共にいることができる。

これを読んでる民草よ、恐怖に震えるがいい！跪いて命を乞うのだ！魂ぐらいは残してやる。

○月×日 天氣：天使共の涙

魔王様が我に魔力を補給するようにとのことで、焼き菓子と冷血天使の生き血を、ご自身の足で運んでくださった。これは恐悦至極なことだ。菓子の方は未だ地獄の業火の熱を保っており、味はこの魔界全土に響くような足であった。この魔王様の褒美で忠誠度がさらに高まったのだっ。

♪月△日 天気：下界の民どもを殺す毒ガス

今日は新しい四天王が一人増えたのだ。名はユズモデウス。ユズモデウスは魔王様が作り出す甘美な菓子に釣られて魔王軍に入隊したんだぞ。ユズリオン空白の北方將軍に任命されたことにより、魔王軍の四天王は埋まることとなった。今は任を辞しているがいつか西方將軍と南方將軍が帰ってくることを我は望む。

□月▽日 天気：血の色に染まる空

我らが魔王様の上には実は破壊神様がいらっしやる。その名はカザリオン。魔王様は今日は破壊神様につきつきりでお仕事をされていらっしやった。仕事とはいえ、魔界將軍は上司の破壊神様より、東方將軍ツアラトウストラ。つまり我を見て欲しい。我々は永遠を誓い合った仲ではないか。そして最近、魔王様は破壊神様となにか交渉している。魔王様は世界の半分を我に与えると言ったのだから、破壊神様には何も与えないで

欲しい。これで二人で世界を支配できるのに。

□月○日 天気：この世を照らす閃光

魔王ミナト様がかザリオンと交渉してた意味がわかったのだぞ。

魔王様は自分と我を早退できるようにずっと頼んでいたのだ。

魔王様曰く、西方將軍と南方將軍は空席となっていた。それは辞した訳ではないと魔王ミナト様がおっしゃったので、今度は二人でその二人に会いに行き評議会を再び開催したのだ。ちなみにその二人とは西方將軍ゆっちーと南方の司令官はみかちゃん。魔王様はこの二人と話すことにより、二人の天使どもの洗脳を解いてくれた。この二人のおかげで我的世界は変わった。なので我はまた二人と魔王軍で再会できて嬉しかったのだ。

やっぱりお姉様、大好き！